

欧米の雑穀と 古守豊甫博士懐古一身土不二

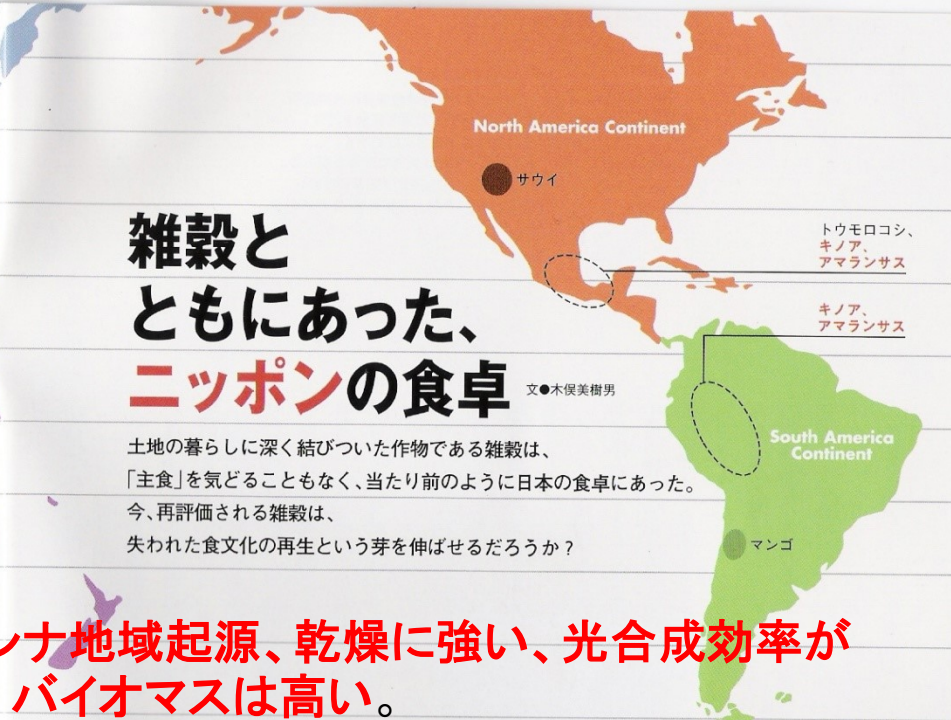
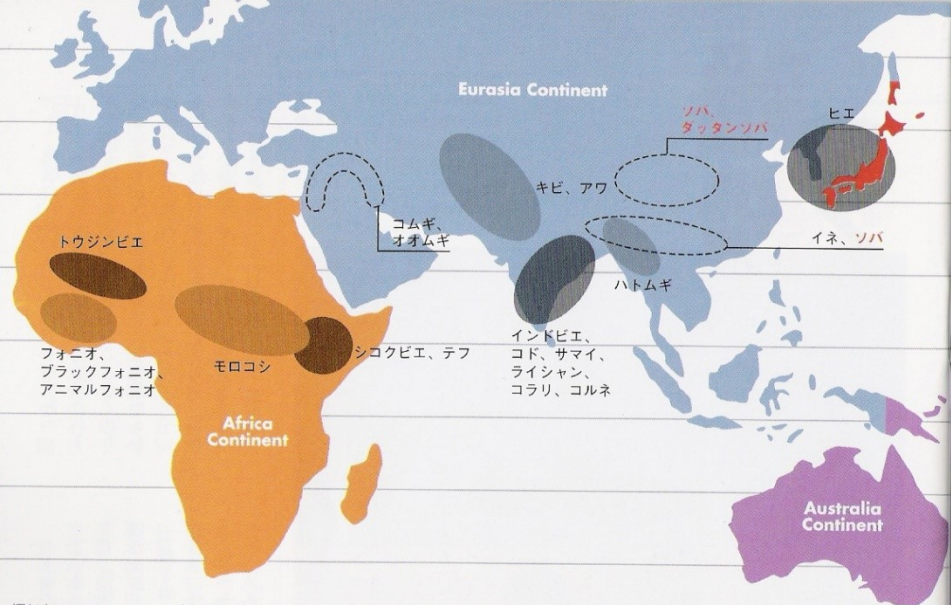


雑穀街道

2016年5月

特別小展示

植物と人々の博物館

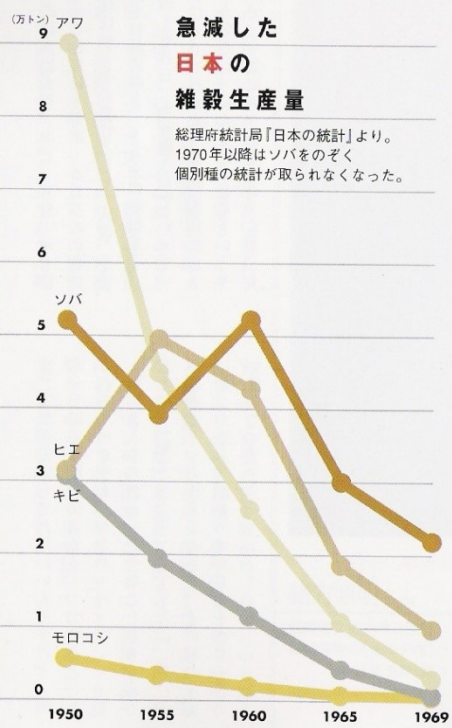


雑穀と ともにあった、 ニッポンの食卓

文●木俣美樹男

土地の暮らしに深く結びついた作物である雑穀は、「主食」を気取ることもなく、当たり前のように日本の食卓にあった。今、再評価される雑穀は、失われた食文化の再生という芽を伸ばせるだろうか？

サバンナ地域起源、乾燥に強い、光合成効率が良い、バイオマスは高い。



急減した 日本の 雑穀生産量

総理府統計局「日本の統計」より。
1970年以降はソバをのぞく
個別種の統計が取れなくなった。

雑穀のふるさと

この地図は阪本寧男著「雑穀のきた道」(NHKブックス)の「イネ科穀類の起源地域」を元に、イネ科穀類に似たソバ、ダツタンソバ、キノア、アマランサス(擬稈穀類。地図内赤字)の起源地域を加えたもの。世界の主要穀類となっているイネやコムギ、オオムギ、トウモロコシの起源地域も参考のために示している。ただし、ここでは日本を原産地としているヒエを含め、雑穀の地理的起源はまだまだ厳密に特定できないものもある。日本に伝わったキビ、アワ、モロコシをはじめ世界的な広がりをもつ雑穀の他に、インド亜大陸のインドビエやコド、アフリカのフォニオなど、起源地域とその周辺にとどまって栽培されている雑穀も多い。

残されていますが、この半世紀で日常の食卓からは消えていきました。このことは、日本人が食事をめぐる伝統的な環境文化を捨て去り、日本人であることをやめたことを意味しています。それでも、最近の健康食ブームによって雑穀の再評価がなされるようになり、岩手県ほかで栽培面積を拡大しつつある「小さな希望の種」が、これから新しい芽や根を伸ばしてほしいと願っています。

**混ぜ合わせて
食べるもの**

日本人の食生活史を生きながら大まかに見ると、野生動物、植物の狩猟・採集・漁撈を中心とした段階から、イモ類の焼き畑農耕、雑穀の焼き畑農耕、さらに水稲栽培を中心とする段階へと変遷してきたようです。

明治期の初め頃の全国食料調査によると、イネ、ムギのほか、アワ、ヒエ、ソバ、キビなどの雑穀、イモ類などが地域ごとに、割合は違いますが混ぜ合わされて常食とされていました。その頃はまだ「主食」という概念はなく、イネ米が日々の食料の中心ではありませんでした。

その後、近代産業が急速に発展する中で、化学肥料、農業、農業機械などの科学技術の開発にともない、農業の方法が大きく変化しました。イネもまた、耐寒性品種が改良されて冷涼な東北や北海道でも水稲栽培が順次可能となるにつれて、米が日本人の主食という位置を占めはじめようになります。第2次

小さな希望の種

雑穀の在来品種は、いろいろな祭祀の供物としてかろうじて

世界大戦中には、配給制度によって中山間地農村でも米が食べられるようになりました。戦後、アメリカからの食糧輸入が拡大すると同時に食生活様式もアメリカ化し、コムギパン食と肉類などの副食重視の方向になり、主食となったイネさえも作付け減反、消費減少になりました。個別雑穀の統計値はあまりに小さくなったので、ソバ以外は1970年から示されなくなりました。



日本では急減、絶滅寸前(ソトコト付録チビコトより)

欧米の雑穀

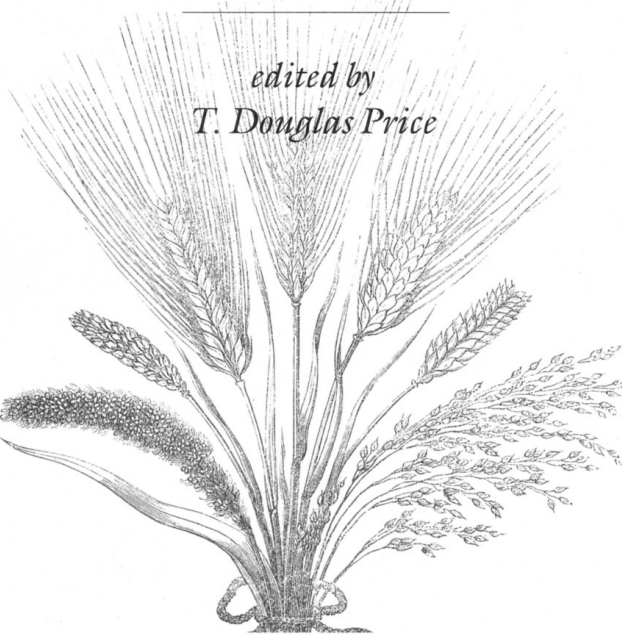
- ヨーロッパで栽培されてきた雑穀
 - イネ科： キビ、アワ、(マナグラス)
 - タデ科： ソバ
- 新大陸で起源した雑穀
 - イネ科： サウイ、マンゴ、<トウモロコシ>
 - ヒユ科： センニンコク、アカザ科： キノア

ヨーロッパの雑穀



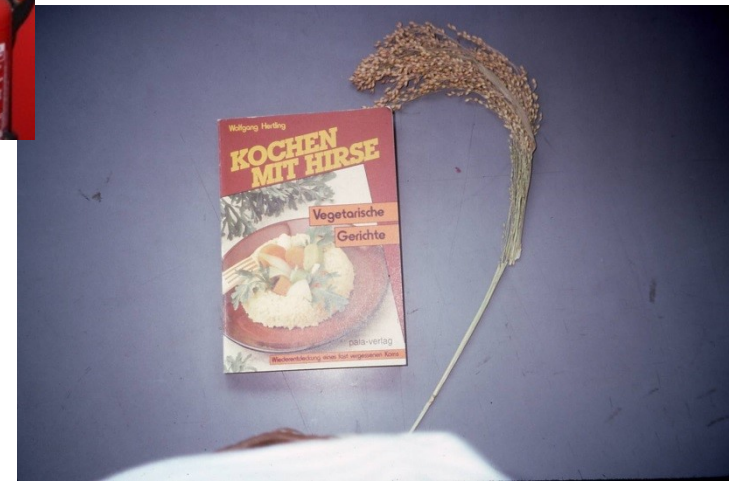
EUROPE'S FIRST FARMERS

*edited by
T. Douglas Price*



ドイツ、フランクフルト
の自然食レストラン
にて

フランス、ルーア
ンのホテルにて



ステップで起源して、遊牧民が伝播した

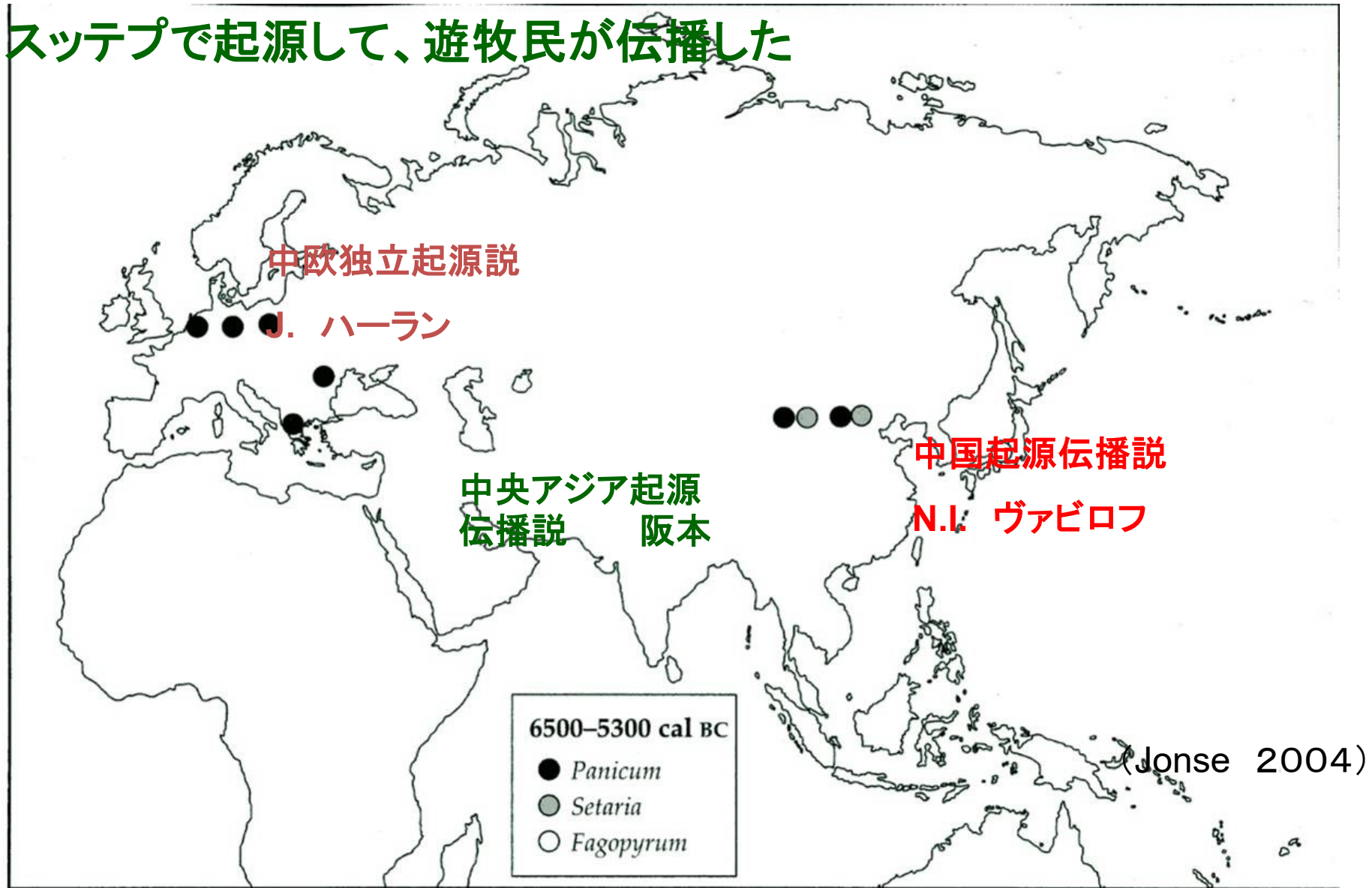


Figure 10.1. Archaeobotanical records of *Panicum miliaceum*, *Setaria italica* and *Fagopyrum* spp. Falling between 6500–5300 cal BC (source references in text).



J.ジェラルド(1597)によって描かれたヨーロッパのキビ(カンタベリー大聖堂図書館所蔵)

皆様は、雑穀は現在では健康食だが、昔の「日本の貧農民」がやむなく食べていた穀物という偏見を持っていることでしょう。夏作の雑穀類は冬作の麦類とともに、第2次世界大戦後までは、山村では多くの家族の主要な食糧でした。雑穀は縄文文化の系譜を継承してきたのです。

ユーラシア大陸の西のヨーロッパでもほぼ同じように、多種の麦類とともに、キビやアワなどが栽培されてきました。

キビは8500年前から、アワも同じくらい古くから栽培されてきました。ソバはこれらほど古くはないようです。

雑穀街道



展示の標本は、ヨーロッパで栽培されていたキビとアワです。

イタリア産のキビはフランスで購入して、小菅村の栽培見本園で栽培したものです。

雑穀街道





イギリスのキュー植物園の博物館No.1には民族植物学の展示がある。



イネ科庭園の種まく人像の足元には世界中の麦・雑穀が植えてある(上)、南米のイネ科穀物マンゴ(右)。



イギリスのエデン・プロジェクトの全景



世界の雑穀類の展示、
インド起源のコドラなども
植栽されてる。





国際イネ年の展示(左、注
連縄と日本のイネ)、アワを
成型した小鳥の巣箱



センニンコク、ブログダールのナショナルトラストでリンゴなど果樹の在来品種保存をしている。



ベルリン自由大学植物園の伝統的コムギ畑、
多種の随伴雑草が生えている(左)。キビの展
示(右)。



ハイデルベルク大学植物園のイネ科
穀物の展示、フランクフルトのパルメ
ンガルテンに植栽されたセンニンコク



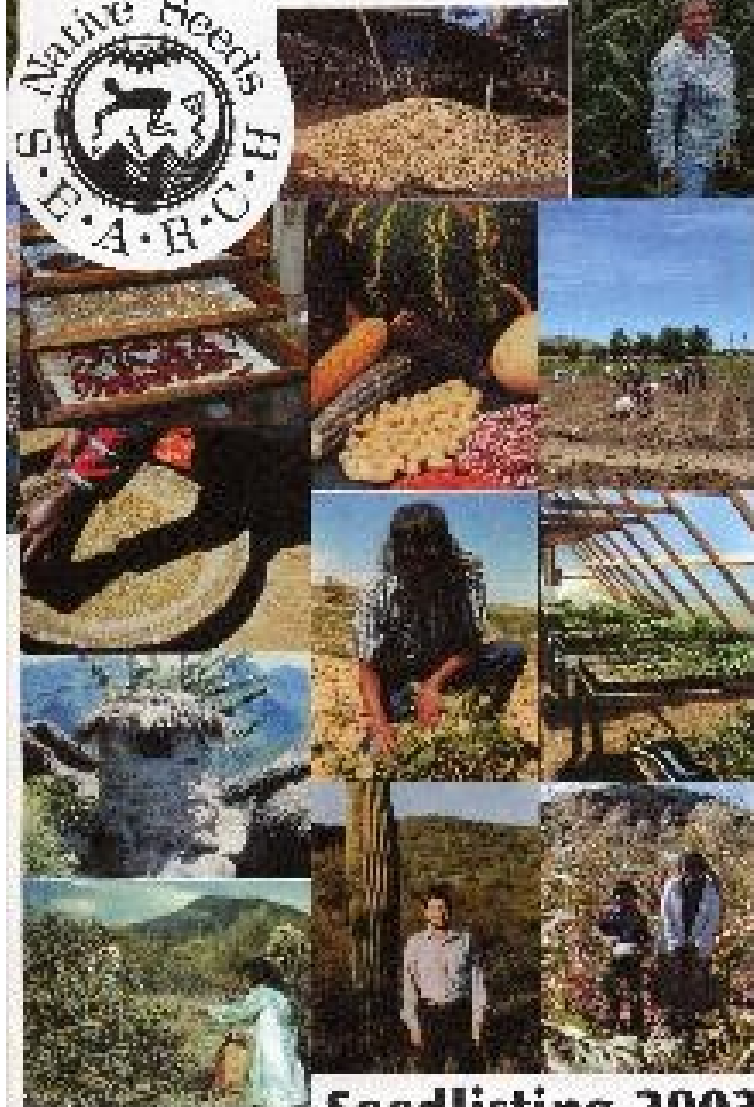
ドイツ、フランクフルトのスーパーマーケット(2015、
キビ、ドイツとウクライナ産)。ビュルツブルク(2013)
ではアワ(中国産)、キビ(イタリア産)も売っていた。



スペインのバルセロナの高級スーパーマーケット（2016、キビ、ソバ、キノアなど）



**Celebrating 20 years of
Conservation 1983-2003**



Seedlisting 2003



Are you a member? Look for your expiration date near your name.
Members receive a 10% discount! See page 66 to join or renew today!

Native Seeds/SEARCH
2501 N. Fairview Ave.
Tucson, Arizona 85712

ADDITIONAL INFORMATION REQUESTED

NOV 10 2003
JAN 10 2004
NOV 10 2004
JAN 10 2005
NOV 10 2005

アメリカ、アリゾナ州のNPO、メキシコなどの先住民の栽培植物在来品種の現地保全と施設保全を行っている。右上はサウイ。

ソノラ砂漠博物館の資料より



コムギ

イネ

トウモロコシ

ジャガイモ

オオムギ



サウイの芽生え



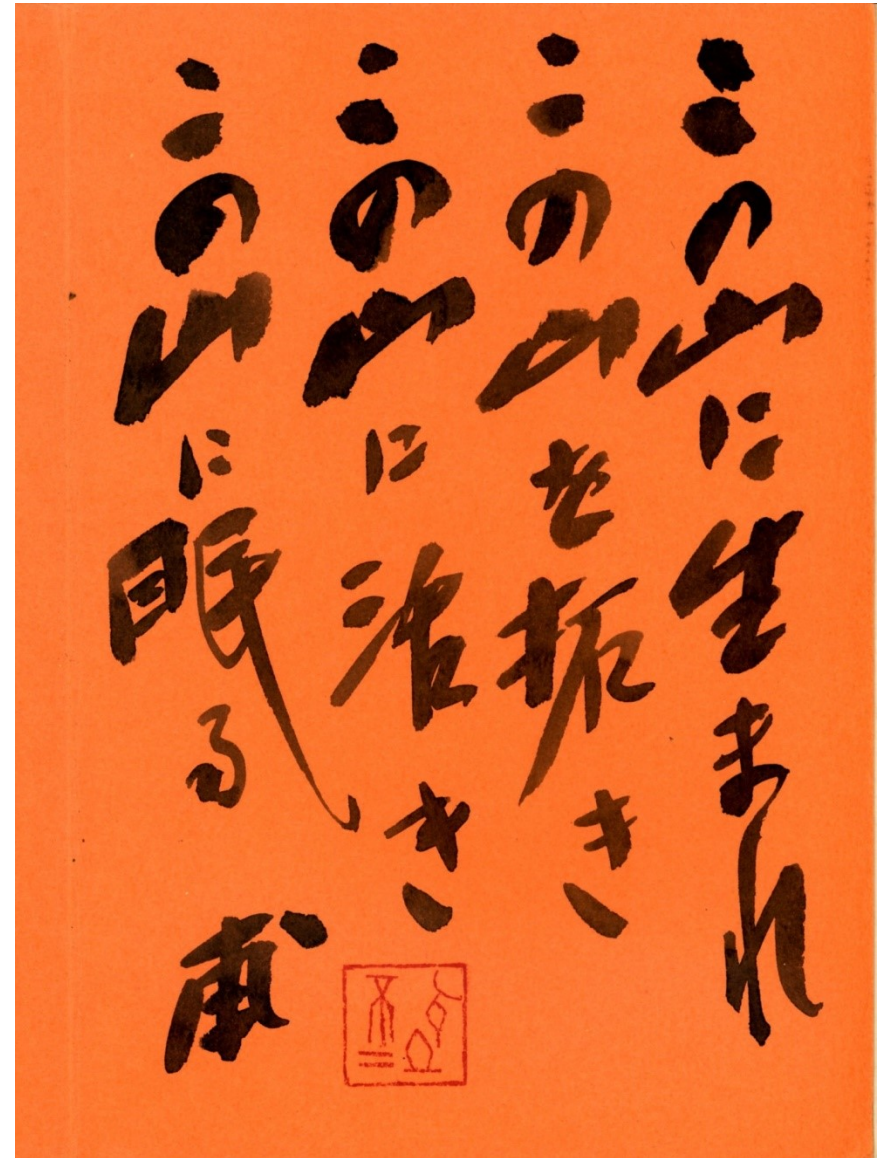
アメリカ、ハワイのカイルア(2014、
上、キビなど)、およびカハラ(2015、
右下、キビとテフ)のスーパーマー
ケットで販売している雑穀類



カナダのバンクーバーのスーパーマーケット(2014、上、キビやキノアなど)、市内の植え込み(下、トウジンビエ)



古守豊甫博士懐古一身土不二



長寿村調査

古守豊甫博士(医学)が、山梨県上野原町(旧櫛原村)は穀物・野菜食による世界有数の健康長寿村であることを見いだされてから、雑穀街道の村々には高名な研究者が調査研究のために沢山訪れてきた。

近藤正二教授(東北大学、長寿学)、鷹觜テル教授(岩手大学、栄養学)、光岡知足教授(理化学研究所・東京大学、腸内細菌学)、阪本寧男教授(京都大学、民族植物学)、加藤肇教授(神戸大学、植物病理学)、平宏和(栄養学)、橘礼吉(石川県立博物館、民俗学)、安孫子昭二博士(東京都埋蔵文化財センター)、松谷暁子博士(東京大学、考古学)、小林央往教授(山口大学、雑草学)、ほか雑穀研究会の多くの研究者。

海外からも、森口幸雄教授(リオ・グランデ・ド・スール・カトリック大学、長寿学)、WHO調査班、A.シタラム博士(全インド雑穀改良計画)、S.パンダ博士(コルカタ大学、植物学)、L.カンハスワン博士(ラジャバト大学、環境教育)、ほか。

古守豊甫博士の略歴

- 1920 山梨県甲府に生まれる
- 1938 桐原小学校代用教員として赴任
- 1943 東京医学専門学校卒業、軍医少尉任官
- 1944 ラバウルに従軍
- 1946 復員後、東京医科大学で肺結核の臨床研究
- 1947 国立甲府病院内科勤務
- 1954 古守病院創設
- 1959 医学博士取得
- 1968 長寿村桐原の発見、回診を続ける
- 1976 日本医師会「最高優功賞」受賞
健康長寿の普及啓発に尽くす
- 2008 他界

寄贈著書

古守豊甫1963、南雲詩ーラバウル従軍軍医の手記、金剛出版、東京。

古守豊甫1976、長寿村・桐原、三瀧社、東京。

古守豊甫1977、長生きの研究、風濤社、東京。

古守豊甫1979、長寿村の教えるもの、日常出版、東京。

古守豊甫1982、長寿村回診記ー山梨・桐原のおとしよりたち、社会保険出版社、東京。

古守豊甫1986、長寿村・短命化の教訓ー医と食からみた桐原の60年、樹心社、東京。

古守豊甫1988、健康と長寿への道しるべ、風濤社、東京。



長寿村桐原の碑(左)、天皇行幸の碑(右)



古守博士とシタラム博士
(左、梶原)、古守博士ほ
か(右、国立)





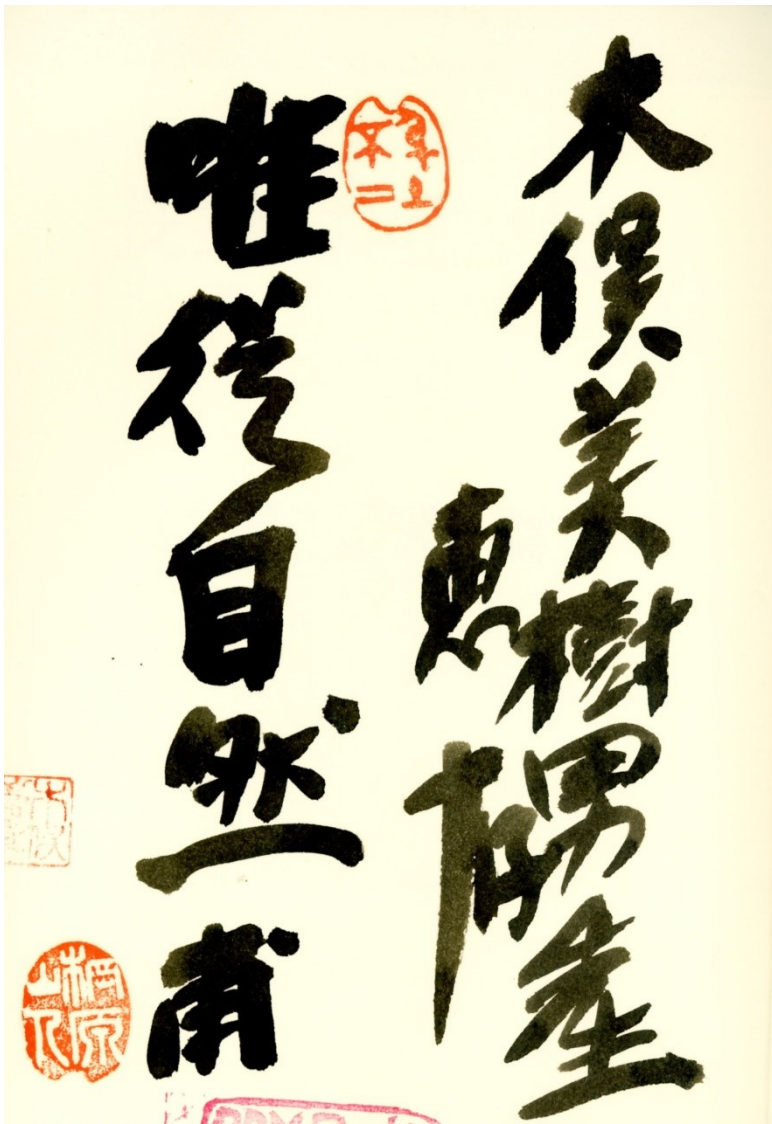
上野原市の長寿村桐
原の碑と古守博士(上)、
古守博士と光岡教授
(下、国立)

製作者は古守豊甫博士
のご研究に導かれ、阪本寧
男博士（京都大学名誉教
授）のご指導により、雑穀
の調査研究に従事してきま
した。山村での楽しい研究
者人生を与えてくださいま
した両老師に深く感謝します。

2016年4月20日

木俣美樹男

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文
化研究所フェロー、東京学芸大学名誉
教授・農学博士



小菅村

Sobibo



エコミュージアム
日本村

素のままの美しい暮らし

